

世代を超えて地域について語ろう ～ふるさと「東郷」をよりよい町にするために～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
薩摩川内市立 東郷学園義務教育学校	薩摩川内市立東郷学園義務教育学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 3名 3名 地域コーディネーター 5名 5名	東郷学園義務教育学校 地域学校協働活動



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校は平成29年4月に5小学校が1小学校に再編され、平成31年4月に旧東郷小・旧東郷中が合併して東郷学園義務教育学校が誕生した。「地域から学校がなくなるのは寂しい」という声を受け、地域と学校が連携した取組を企画・運営してきた。
本取組は、地域の課題を挙げ、その解決のための具体策を、地域の方々と語り合うものである。地域の方とのふれあいの中で、児童生徒が地域に課題意識をもち、ふるさとに誇りをもてるようにすることがねらいである。

目標や目指す姿(学校)

ふるさとに課題意識をもち、ふるさと「東郷」に誇りをもつ
児童生徒の育成

目標や目指す姿(地域)

児童生徒一人一人が、ふるさとに愛着と誇りをもち、
未来の町づくりに貢献していきたいと思えるようなまち



東郷学園義務教育学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 各地区コミュニティ協議会会長 | <input type="checkbox"/> 公民館主事 |
| <input type="checkbox"/> 学識経験者 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 地域住民代表 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 地域諸団体代表 | など、計 20 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> PTA代表 | 年間平均 5 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

事前に学校運営協議会事務局である学校職員で、協議題について検討した後、資料を作成し、学校運営協議会の前に、委員に配付(郵送)している。委員は一読してから会に臨むので、詳細な説明が不要である。
また、協議すべき事項について、担当者が具体的に示すことで、委員も意見が言い易く、短い時間で協議のまとめができています。
会の充実のために、本会が有している「地域連携部会」「環境整備部会」「学習支援部会」(それぞれに具体的な活動を進めている)の協議に時間をかけられるようにし、最後に各部会からの報告を受け、次回までの取組を確認し合っている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

5～9年生が挙げた、ふるさと「東郷」の課題とその解決策を、事前に学校運営協議会「地域連携部会」で話題にする。その課題について知識や経験を有する方を地域住民代表として、実際に8・9年生と地域住民代表・PTAの方を語る場へ参加依頼をしている。
課題ごとに分けた班には、地域連携部会の方も入り、生徒との意見交換・助言等を行う。



地域連携部会の様子

地域学校協働活動

8・9年生を8つの班に分け、そこに3・4名ずつ地域の方・PTA等の大人に入ってもらっている。課題について意見交換がなされる際、実現の可能性や別の方法等について助言をもらい、解決策が具体的に定まっていく。
後日「地域貢献活動」として、実際に活動する場を設定する。



世代を超えて地域について語ろう

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

【目標の共有と事前の周知】 学校運営協議会「地域連携部会」が活動の柱となり、地域の人材活用を進めている。公民館主事も学校応援団を活用し、本取組が充実するように人材選定を行っている。事前に、児童生徒がどのような課題を挙げ、その解決策をどのように考えているかを周知することで、より専門的な立場から具体的な助言をもらっている。
【担当教諭の役割】 コミュニティ・スクール担当の教諭が学校運営協議会とPTA、児童生徒をつなぐ役割を果たしている。司会役の生徒には、思考ツールの事前説明を行い、話し合いが充実したものになるよう事前指導の充実を図っている。

取組

成果・効果

【成果・効果】

- 旧東郷中時代から取り組んでいる「世代を超えて地域について語ろう」が定着し、地域の方との交流の場となっている。
- コロナ禍で開催できなかった時に、「学年を超えて地域について語ろう」を実施したことで、翌年から二段階での実施ができています。5月中旬に5～9年生で実施する「学年を超えて地域について語ろう」では、地域の課題について解決策を話し合い、6月第2土曜日に8・9年生と地域・PTAの方で実施する「世代を超えて地域について語ろう」では、より具体的な解決策を決定することができています。
- 令和3年度からは、解決策を具体的に実行する時間として5～8年生が「地域貢献活動」に取り組んでいる。取組の内容が充実し、児童生徒一人一人が、地域への愛着を深め、地域のために取り組もうとする意欲がわいている。令和4年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、9年生は「地域の行事に参加していますか」に対し「どちらかと言えば参加している」以上が70%、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」に対し、肯定的な回答が70%と、全国の40%を大きく超えている。
- 生徒が司会をするため、リーダー性が養われる場となっている。思考ツールの活用は、各教科の授業でも応用でき、学習にも役立っている。
- 地域の方々からも、「小中学生が地域のことに興味をもって来て嬉しい」「小中学生もいろいろなことに気付き、そして考えているんですね」と好評を得ている。また実際に地域に出かけて活動する際には、地区コミュニティ協議会の協力を得て、充実した活動を進めることができています。

◆ 学校と地域が共に目標を達成できる取組として、コミュニティ・スクールの活動の柱の一つとしての定着